

第2回 加賀市歴史的風致維持向上協議会 議事録

1. 日 時 令和5年3月1日(水) 10:00~12:00

2. 場 所 大聖寺地区会館 2階大会議室

3. 出席者 委員 9名

(会長) 馬場先 恵子

(副会長) 長谷川 孝徳

道地 慶子

西出 正光

佐野 立子

山口 隆治

西野 徹

荒木 優子

辻江 冬樹(代理 安 英樹)

事務局 10名

加賀市建設部都市計画課、産業振興部文化振興課

4. 次 第

1) 開 会

2) 建設部長あいさつ

3) 議事

令和4年度進行管理・評価について

① 組織体制

② 重点区域における良好な景観を形成する施策

③ 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

④ 文化財の保存又は活用に関する事項

⑤ 効果・影響等による報道

⑥ その他(効果等)

4) その他

軽微な変更について

5) 閉 会

5. 傍聴者 2名

6. 議事内容

◆事務局

本日は、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。

只今より、第2回加賀市歴史的風致維持向上協議会を開会いたします。

委員総数10名中、代理出席を含め9名の方にご出席いただき、「加賀市歴史的風致維持向上協議会条例」第5条第3項の会議成立要件を満たしていることをご報告いたします。

◆建設部長

本日は、ご多忙のなか加賀市歴史的風致維持向上協議会にご参集いただき、誠にありがとうございます。

加賀市歴史的風致維持向上計画については、令和3年3月23日に国認定をいただき、北陸ブロックにおいて、5つ目の認定都市になっております。その後、現在は指定に向けて輪島市が国との協議を進めております。また、令和5年度においては歴史文化を活かしたまちづくりの気運をさらに高めるため、北陸ブロックでは第2回北陸歴史まちづくりサミットが富山県高岡市で開催されます。各市それぞれが地域の個性を活かした歴史まちづくり施策を進めており、本市におきましても、城下町大聖寺を重点区域として計画を進めてまいりました。今回は、計画実施の2年目ということになりますが、事業の進捗・評価を行い、本協議会での委員の皆様からのご意見、アドバイスを賜りながら進めてまいりたいと考えております。

先般、社会情勢の不安による生活の変化など社会をとりまく環境も大きく変わっていくなかで、地域特有の歴史的風致を維持向上していくためには、広い視野で考えることが必要であり、強い危機感を抱きながら取り組んでいかなければならないと認識しております。また、歴史まちづくりを進めていく上で、官民間わず、多くの人に関わり、世代間の交流を深めていくことが大変重要なことだと考えております。

歴史的風致の継続的な維持向上が、市民のみなさん一人一人のふるさとへの誇り、そして心の豊かさになり、加賀市らしい「人づくり」と「地域づくり」を目指すものとなりますよう、委員の皆様におかれましては、様々な視点からのご意見、アドバイスを賜りますようお願い申し上げ、私からのご挨拶といたします

◆事務局

本日は、お手元の次第に基づき、進行してまいりますので、ご協力宜しくお願いいたします。

ここで、資料のご確認をお願いします。

まず、本日の「次第」、「協議会条例」、「協議会委員名簿」、「令和4年度進行管理・評価シート(案)」、「軽微な変更に係る変更箇所一覧」です。不足の資料はございませんでしょうか。

それでは、議事の前に変更となった委員の方を紹介いたします。

加賀市まちづくり推進協議会連合会 会長 西野徹 様

石川県教育委員会文化財課 課長 辻江冬樹 様

本日は辻江委員の代理で同課の安英樹様にご出席いただいております。

次に委員の欠席をご報告いたします。石川県都市計画課課長の竹内委員は外せない用務があり、本日欠席のご連絡を頂いております。

それでは、議事に入りたいと思います。

協議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となりますので、これよりの議事進行を馬場先会長にお願いします。

◆馬場先会長

よろしく申し上げます。

この評価に関する協議会も今年で2年目となりました。昨年度の会議においては委員、事務局の双方ともにまだ慣れてないということもあり、表記の仕方や内容について色々な質疑があったかと思えます。今年度はそれも踏まえたいうえで皆さんに今年度の評価について話し合っただきたいと思えます。また、特に地元の方には、地元として色々と盛り込んでほしいような意見もあると思えますし、学識経験者の方や県の方においては、他の地域の事例なども踏まえたいうえで貴重なご意見をいただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、議事の「令和4年度進行管理・評価について」の①「組織体制」から③「歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項」までについて、一括して事務局より説明してください。

◆事務局

(都市計画課 三瀬リーダーより説明)

議事 令和4年度進行管理・評価について

- ① 組織体制
- ② 重点区域における良好な景観を形成する施策
- ③ 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

◆馬場先会長

ただいまの説明について、何かご意見・ご質問ありましたらお願いします。

◆佐野委員

2点ほどお聞きしたいことがあります。まず、評価シートのP4の錦城山公園整備の中で、大聖寺城址や錦城山公園の観光案内をされていると話されておりましたが、もしよろしければ私も観光案内所も持っておりますので、それらの情報提供をいただければ幸いです。

次に、評価シートのP6散策路の整備の件で、散策路の整備をした後の活用などはどのように考えているかをお聞きしたいです。

◆事務局

今回の散策路整備では、旧北国街道、熊坂川の桜並木と、その西側にある錦城山公園や長流亭、その北側の架け替えされた松島橋と旧大聖寺川沿いの桜並木をルートで結びたいと考えております。そのため、この散策路は大聖寺の散策拠点となる錦城山公園、長流亭をめぐる道しるべ的な位置づけとして考えております。また、大聖寺の中には安心歩行エリアというものがあり、車道と歩行者を色分けして歩行者

の安全性を高めるといったことをしていますが、今回の計画路線においても小学校があるということで、歩行者の安心安全の確保ということも活用の仕方として進めていきたいと考えております。

◆佐野委員

ありがとうございます。私どもも大聖寺の散策マップを作っておりますので、整備がある程度進みましたら、この散策路もぜひ掲載させていただきたいと思います。

◆馬場先会長

散策路について追加で質問します。水路に蓋をして道路を拡幅するということですが、その中に歴史的な水路というのは含まれていないでしょうか。江沼神社の横は残すというお話でしたが、歴史的風致維持向上という中で、もしも元からあった水路であればそれを活かすといった整備も必要なのではないかと思いますので、そのあたりを確認したいです。

◆事務局

江沼神社横につきましては、神社側に昔からの石垣が残っており、地元の方からぜひ残してほしいというご意見もいただいているので、石垣を残した整備を考えております。錦城山前と錦城小学校横におきましては、歴史的な水路などは特にないとのことなので、蓋つきの側溝への変更を考えております。

◆馬場先会長

わかりました。舗装材や側溝の工法検討について示しましたが、それらについて検討する機関というのがありますでしょうか。景観に調和し、どのようなものがふさわしいかを検討する組織がありましたら教えていただきたいと思います。

◆事務局

工法検討につきましては、大聖寺の地元団体である「大聖寺わがまちビジョン」と意見交換を行っております。その団体との話の中で、事例なども踏まえながら歴史的な観点からふさわしい景観となる工法の協議を行っております。ただ、維持管理面や建設コストにおけるメリットデメリットという点もございますので、それらも踏まえながら街なみにふさわしいものを検討しております。また、江沼神社につきましては来年度に基本計画を進めていくため、散策路を先行した形で検討を進めておりますが、江沼神社の計画とも整合を図っていく必要があると考えております。

◆馬場先会長

加賀市には景観審議会もありますので、可能であれば工法を決定する前に審議を図っていただきたいと思います。

◆西野委員

伝統芸能の継承としてワークショップなどを開催しているとのことですが、現在は獅子舞自体の存続が危ぶまれている状況です。日本全体でもこういった伝統芸能のなり手がいないという課題はどこでもそうとは思いますが、この体験とかワークショップに来られた方にアンケートなどで意見を聞いています

でしょうか。そこに今後のこういったものを維持していくヒントがある気がしますので、そういったこともしているのであれば教えていただきたいです。

◆事務局

獅子舞の事業に関しては市とは別の組織で行っているため、現在のところ事業実施に関する評価などは行っておりませんが、今回このようにご意見を頂きましたので一度そちらの方に確認を取るとともに、3月には獅子舞のイベントを加賀市美術館等で開催すると伺っておりますので、またそういうところでも評価を取れるようしていきたいと思います。

◆西野委員

獅子舞に限らず、伝統芸能の継承は色々とワークショップなどで子供たちも交えてやっているみたいなので、そういったところの意見を吸い上げられれば、今後興味を持つ子もいるかもしれませんし、なり手になる方も見つかるかもしれません。担い手不足はすぐに解消できるものとは思いませんので、こういう小さいところから積み上げていかないと認知していかないとと思うので、考えていっていただけたらと思います。

◆馬場先会長

獅子舞について、私も大聖寺の生まれ、育ちですが、我々の時代のころは子供がずっと関わっていました。そうしたものが少子化の影響からか省略されて無くなっていき、今はそういった数少ないことを知っている大人たちだけで継承されている例も多いと思います。もともとはお祭りの形態でやっていたのか、どういった人たちがやっていたのかなどをしっかりと記録し、そしてそれを後世にどう残すのか考えるのはこの歴史的風致の計画の中で検討することはできるのでしょうか。どこかでそういったものをまとめているものがあるとは思いますがいかがでしょうか。

◆山口委員

獅子舞のことで、千葉県から来ていた人がいたかと思います。

◆佐野委員

稲村行真さんですね。

◆山口委員

その方と以前お話しをしたことがあります。彼は加賀市内をずいぶんとまわり、私どものところにも市内の獅子舞について紹介をしてくれました。たぶん子供たちにも広げるため、その一環としてやったのではないかと思います。彼はおそらく子供たちに伝統を伝える思いでやっていたと思います。

◆長谷川委員

昭和54年ごろに石川県で獅子舞総合調査を行っていますが、その報告書の中ではこういった活動などをやっていたかが書かれておりました。その後、学生の卒業研究で地元の獅子舞に関する研究を取り扱った学生が何人かおり、その報告書が使われました。ただ、調査が行われていた昭和54年ごろから現在までのおよそ50年弱の間ですでに変わっているものが複数ありました。例えば、富来出身の子が研

究を行うために地元の獅子舞を調べましたが、実際は残っているものが一部しかない、そのうち獅子頭だけでも祭礼で展示するものが一部で、あとは倉庫に仕舞ったままといった状態でした。また、道具は仕舞ったままのため、虫食い状態であったり、こんな状態になったりなど、いろんなことがわかりました。また、町そのものが少子化で獅子取りの子がいなくて中止になっている、あるいは、今まで男の子だけでやっていたのが、中学生の女の子が笛を吹いているとか、形態も変わってきています。そのため、昭和54年に出したものを基本としながら今大聖寺でどうなっているのか、加賀市ではどうなっているのかせめてそのくらいは調べても大丈夫なのではないかと思えます。また、残っている団体残っていない団体については教育委員会や保存団体がやってもいいですし、そういったところからアンケート調査をするといった方法があるのでないかと思えます。そうすればなぜ無くなったなどについてはすべてわかります。おそらく後継者不足が一番多いとは思いますが、町が合併するなどして、その時に無くなったなど、意外とそのような例もありますので、調べていただくのも一つかと思えます。

◆佐野委員

山口委員の言われた稲村さんですが、全国の獅子舞を調べており、加賀市内の獅子舞のことも全ての町内の祭りを調べていました。その中で、加賀市では127つの町で獅子舞が受け継がれており、全国的に見てもこのようなことは珍しいと仰っていました。今度の3月19日には先ほどありました通り、加賀市美術館で「加賀市獅子舞春祭り」も行われます。また、私ども観光情報のホームページでは、127町で受け継がれている加賀市獅子舞の魅力について紹介を行っておりますので、ぜひ見ていただければと思います。そういったことも踏まえると、加賀市では十分に獅子舞が継承されているといった印象を持っております。

◆道地委員

先ほど西野委員も言われておりましたが、整備の方は計画したものが出来ることで効果が発揮されたと言ってよいと思えますが、啓蒙活動についての効果をどのように図ることがここには一切書かれておりません。また、これは10年計画ですので、中期的、最終的な目標をどのように決められており、今はどの時点にいるのかを客観的に見られるようなものをこの評価シートに記載する必要があると思えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

◆事務局

ソフト軸に関してどういった指標を持つのかについて、正直なところ現在具体的な指標というものは持っておりませんが、このようにご意見いただきましたので、数値化というところまでいけるかはわかりませんが、何かきっちりとしたゴールを設定できないかを検討したいと思えます。

◆道地委員

評価軸を持つことが難しい側面の事業もあると思えますが、現在何%といった客観的にだれでも理解できるような書き方もあると思うので、そのあたりをできればさらに価値のあるものになると思うのでご検討いただければと思います。

◆長谷川委員

私は高岡市の歴史的風致維持向上協議会の方の委員もやっているのですが、そちらでは伝統工芸の普及活動の中の一部として、伝統的なものである「菅笠^{すげがさ}」について取り組んでいます。菅笠は農林水産の方でまず菅田^{すげた}の圃場がどれだけあるかについて毎年計っており、後継者が減って売れなくなってきた中で、生産数はどれだけ変わり、売るものとしたらどうしていけばいいのかについて、数値目標のようにして計っています。そうするとその中の一環として、こどもや一般の方、観光客に菅笠を作ってもらおうといった目標が出来ます。ただ、菅笠を作る教室などを開いていますが、教室をどれだけ開こうか、そのもととなる指標がなければいけませんし、もと自体を理解してもらわないと困ります。例えば、評価シートのP18のところ、九谷焼絵皿イラストコンクールというものがありますが、九谷焼の窯は大聖寺の地域にどれだけあるか、あるいは作家がどれだけいるのか、この何年かで窯を閉じたところはどれだけあるのか、後継者の増減はどうか、そういったことも入れておかないと、どれだけ普及発信しやすと書いてあっても、発信者が無くなってしまっただけでは元がないです。高岡の場合、工芸をどのようにしていくかについて富山大学芸術学部の先生などと連携しながら具体的な策を作り、今後何年間でどういうものを作るという風にしていきます。そのため、何年後にはこういったものが出来るといった目標を持たないと、今後維持していくことは難しいのではないかと思います。

◆馬場先会長

例えば、評価シートP18の課題について、「後継者が不足してきているため」といった書き方になっているものを、この数十年でこれくらい減少しているという風に変える。また、その減少を食い止める、もしくは増加させるにはどのような検討をしていけばいいのかなど、それらがわかるような具体的な書き方が望ましいと思います。

また、これと関連した内容についてお聞きします。定性的・定量的な評価の中に、九谷焼については多く記載されていますが、山中漆器については書いておりません。先ほど山中漆器についてはお話しがあったかと思うのですが、書くべきような内容はなかったのでしょうか。

◆事務局

山中漆器につきましては、産業技術センターというのが山中にあるのですが、そこで後継者育成の事務等も行われていますので、新たに何人後継者が増えた、さらに何人職人が減ったかという数は把握できると思います。そのためそちらの方に確認を行い、ご意見いただきましたことを反映できるように検討していきます。

◆馬場先会長

引き続きこれらを踏まえた活動をよろしくお願いします。

◆西野委員

こういった伝統芸能の普及というのは評価するのが難しいので、それを具体的にとなると数字という指標がわかりやすいと思います。今言われた、入った人と辞められた人の数字があるのであれば、評価シートに反映させた方が、聞く側もわかりやすいですし、検討する側も違った策が出てくるのではないかと

と思います。さらに先ほど言いました体験した方のアンケートなども取っていただき、その割合などを数値化し具体的なものがわかれば、次の段階や対応策がとりやすくなるのではないかと思います。

◆事務局

わかりました。

◆荒木委員

江沼神社の周りを遊歩道としてきれいにしていき、熊坂川の桜並木からつなげていくとお聞きしましたが、その熊坂川の桜は寿命のこともあって順番に切られており歯抜け状態となっています。今では長流亭の向かい側の川沿いの方がよっぽどきれいだと感じます。景観は変わっていくものですが、事業の中でせつかくいいものを10年の間に作り、さあこれからとなったときに、熊坂川に桜が無かったとならないよう、桜についても全体の中で考えていくことが必要だと思います。

◆山口委員

評価シート P6 にて旧北国街道を点線としていますが、ここを散策路にするのでしょうか。

◆事務局

旧北国街道については、位置がわかりづらいという意見があり、何らかの目印を設けるといったことを考えており、今は散策路整備と旧北国街道は別で考えております。

◆山口委員

長流亭の近くに発掘された船着き場があるが、教育委員会がせつかく発掘をしたのだから、散策路整備の中でその河道は入れておいた方がよいと思います。

◆長谷川委員

境内から少し右側ある長流亭の船着き場をきれいに復元したところのことです。

◆馬場先会長

歴史的に重要な施設ということですね。

◆山口委員

そうです。

◆西出委員

まず、錦城山の整備、江沼神社、長流亭、先ほどの河道の話や大聖寺藩邸などは、トータルで情報発信をすべきと思います。拠点ごとでどれだけ情報を発信しても魅力に欠けるので、やはり大聖寺藩で一番重要なエリアとして情報をうまく発信できる方法を考えていただければいいのかと思います。もう一つは、能の話についてです。能のまち構想の中で加賀市は能のまちですよと発信し、錦城能楽会なども頑張ってもらえるけれども、如何せん後継者がおらず相当危機的な状態です。今後後継者を増やすために錦城能楽会頑張ってくださいというだけでは難しいと思っています。伝統芸能とはいずれもそうだと思いますが、これは加賀市全体として、能は加賀市の顔なのだということにやるのであれば、もっと積

極的にかかわっていただきたいと思っています。能は世界遺産でもありますし、大聖寺のお松囃子は日本で唯一続いている民間団体の芸能ですので、それをやはり後世に残していくためにも色々と力添えをいただけると何とかなるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

◆馬場先会長

なかなか後継者の問題というのは難しいです。ただ、伝統芸能や伝統工芸についてはどこでも後継者不足というのがありますが、案外大学などの学校があるところでは部活動などでうまく継続されているものもあります。例えば小中高の中で広く芸能に触れるような部活動があるなど、教育委員会の方に働きかけて提案してみるのも一つの案かと思います。

私の方からもう1.2点お聞きしたいことがございます。評価シートP7の空き地活用整備について、その中で空き地を駐車場やポケットパークの整備という風に書かれていますが、まず空き地になってしまっている原因として、一つはもともと町の中にあった商店などが閉店して空き地になってしまっているというのがありますが、そのほかに旧北国街道なんかでも町家が壊されて空き地化してしまうというのがあります。そうした中で、実際に空き地がどのようにしてできたのかの実態を把握し、町家を壊して空き地となったところにポケットパークを作ったなどとならないよう、空き地の実態、空き家の現状を調査していく機会を設けていただきたいと思います。空き地を全てポケットパークとし、まちをにぎわせるのだと思っても、それがかえって逆効果になる可能性もありますので、そのあたりの実態と空洞化を抑えるための方策というのにも必要だと思いますので、ぜひとも検討をお願いします。

◆長谷川委員

それと関連して少しお伝えしたいことがございます。ポケットパークについては評価シートに「地元住民等との協議を重ねながら、適切な整備および管理を行っていくことが必要である。」とありますが、この文章には「誰が」というところが抜けております。誰が適切な整備を行うのか、誰が適切な管理を行っていくのか。特に管理についてですが、金沢ではそこがかなり問題となりました。金沢ではそういう空き地がありますと、そこにたくさん公園を作りました。しかし、その掃除、剪定、片付けはだれが行うのが問題となりました。住民が「市が整備したのであれば市が管理」と言うと、市は「管理は地元」と言います。これは金沢に限らず必ず問題となります。行政側が公園を作ると言うと、地元はぜひ作ってくれと言います。そして、行政が作ったのだから行政側が管理を行うものと思います。しかし、行政側は地元が要望したのだから管理は地元でお願いしますと言います。評価シートの文章にもある地元住民との協議の中で、どちらが管理をするのかをはっきりとしないと後で問題が起こります。散策路についても、景観だけに配慮して地元とこれがいいという話をして、いざそれで施工したとしても、雪が降ると滑りやすくなる、または除雪の重機が載ると舗装が割れますといったのはいけません。地元がこれでいいと言ったのだから除雪車が入れない部分は地元で除雪してくれと市が言っても、地元は市で除雪してとなります。だからこそ、維持管理の考えを必ず頭に入れながら計画に進んでいかないとトラブルの原因を作ることとなります。十分そのあたりをご検討いただければと思います。

◆馬場先会長

ありがとうございます。そのほかご意見ありませんでしょうか。

なければ続きまして、議事の④から⑥、までについて、一括して事務局より説明してください。

◆事務局

(文化振興課 前田企画官より説明)

議事 令和4年度進行管理・評価について

- ④ 文化財の保存又は活用に関する事項
- ⑤ 効果・影響等に関する報道
- ⑥ その他(効果等)

◆馬場先会長

ただいまの説明について、何かご意見・ご質問ありましたらお願いします。

◆道地委員

評価シートには連携をしたと記載されていますが、連携したのであればどういう風にそこから盛り込んでいくのか、それがどういう風に効果的なのか、そのあたりの前後関係を見ていかないと意味が無くなってしまいますので、前半皆さんからご指摘があったことをこの部分にも取り入れていただきたいと思いません。

◆馬場先会長

記入の内容的にどこまで書けるかわかりませんが、協議会では今指摘があったことを報告できるとわかりやすくなると思います。

◆長谷川委員

評価シートの書き方について気になるところがあります。評価シート P25 の「実施・検討にあたっての課題と対応方針」というところで、「復旧の際に資する資料が十分でない」と書かれているのに、「補助事業等で提出された資料を活用しながら、資料整備を計画的に行う」のは矛盾した書き方だと思うので、文章を修正した方がよいのではないのでしょうか。ないものをどう活用するのかとってしまうので、別の文章にした方がよいと思います。

◆馬場先会長

そもそも、選定時に十分な資料が無ければ選定されないと思うので、その後の補修に関する資料をきちんと整理していくという意味でしょうか。

◆長谷川委員

選定時に十分な資料が無いのに選定されてしまったと思われたり、選定時はあったものがその後の管理がきちんと行われず紛失したと思われたりするとまずいと思います。

◆県文化財課安氏

重伝建地区についてですが、重伝建になりそうな建物は一軒一軒選定前にしっかりと調査・記録をしますし、その資料は当然あるはずですが、ただ、建物を修理していく中で、その部分が元々どうだったかといったそういう細かい資料は無いと思います。この文章はそういった意味かと思っています。

◆長谷川委員

それであれば、評価シートもそういう風に書きましょう。

◆西野委員

評価シート P26 でパンフレットを改定して印刷したと書かれていますが、これはどういったところで配布されているのでしょうか。これは作るのではなく周知やアピールが目的だと思うので、1000 部刷ったという実績だけでは物足りないのではないかと思います。実際に配ってはいると思うので、そういうところも記載された方が良くと思います。

◆道地委員

加賀市はスマートシティ課があるのに、電子媒体を利用したパンフレットは無いのでしょうか。加賀市はそこをものすごく推進して、全国に発信をされているので、これらもつなげて考えた方が市の施策としてもいいのではないのでしょうか。

◆事務局

通常、チラシ等を作ったときはホームページにも載せるようにはしているのですが、全部が全部できているわけではないので、今後は全てホームページ等に載せるようにしたいと思います。

◆道地委員

ホームページだけでなく色々な配信方法ありますので検討ください。

◆馬場先会長

先ほどの西野委員の質問と関連しますが、そのパンフレット等をどこに配布しているのかここでわかるものについて教えていただければと思います。

◆佐野委員

観光情報センターにはありますね。

◆事務局

観光情報センターや各展観施設、まちづくり推進協議会などには配る場合がございます。すべてのところではないかもしれませんが、通常のルールとしてはそれらに配っております。

◆山口委員

大聖寺地区の歴史的な都市構想の中で気を付けてもらいたいことがあります。それは、各時代のことをきちんと押さえることです。まず一つ目は大聖寺城です。大聖寺のお城の話が最初に出てくるのは太平記のころで、溝口秀勝の時代で近世の城下町ができてきます。そのとき、今の錦城小学校の所が大聖寺城の一角の中の西の丸でした。つまり錦城山と言うのは城で、それを覚えておいてほしいです。また、大聖寺城は 1615 年に無くなってしまうので、大聖寺城と大聖寺藩は関係ないということも覚えておいてほしいです。二つ目は山の下寺院群です。あれは大聖寺藩とほぼ同時期に整備されています。三つ目は長流亭のある江沼神社の部分です。元々あれは大聖寺藩の藩邸の露地のところに兼六園の 1/8 の大き

さで庭園を造りました。これら3つの時代は分けて考えなければいけません。これを頭に入れて整備していかないと大きな間違いを起こしてしまう可能性もあるのでよろしくお願いします。

◆長谷川委員

山口委員のお話を少し補足します。城下町大聖寺と言ったとき、大聖寺城を頭において城下町と思う人がよくいるのですが、それは間違いです。大聖寺藩は陣屋ですが、当時の時代は陣屋も城扱いにするので、城下町大聖寺は大聖寺藩時代のことを言っています。山口委員の言うように、前後を区別していかないといけません。大聖寺城の時代にも町はありましたが、今のような状態として作っていったのは近世の大聖寺藩の時代です。時代によってどういう風が変わってきたというのがあるから、大聖寺の場合はお城＝藩邸ではなく、藩はあくまでも陣屋です。そのあたりを頭に入れておく必要があると思います。

◆山口委員

今のお話について、大聖寺藩は正確には陣屋では無く御館^{おやかた}（おたて・おたちともいう）です。

◆長谷川委員

わかりますが、あくまで扱いが陣屋ということです。

◆馬場先会長

錦城山に中世の時代から山城という藩の要となるものがあつたので、大聖寺を一つの町として前田家が重宝したというのは間違いないので、錦城山の役割というのは今の大聖寺の要と言えらると思います。

◆馬場先会長

そのほかにご意見等はございますでしょうか。

それでは本日予定していた議事はこれで終了しました。次に次第4の「その他」軽微な変更について、事務局より説明してください。

◆事務局

（都市計画課 三瀬リーダーより説明）

その他 軽微な変更

◆馬場先会長

この件につきまして何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

◆山口委員

軽微な変更 P3 の呉服の小川というところで、「呉服 小川」のあとにカッコ書きで呉服屋と書かれています。これは2つも続けてある意味はないのではないのでしょうか。もしくは、小川の前に呉服と入れるのであれば、1文字分の空白ではなく点でも入れたらどうでしょうか。

◆事務局

こちらの名称は所有者の方に確認したところ、1文字空白とのことで修正しております。

◆山口委員

わかりました。

◆馬場先会長

そのほかご意見ありませんでしょうか。

無ければこれで確認は終わったということで、今までの中で言い忘れたことなどありましたらお願いいたします。

◆県文化財課安氏

進捗状況のシート及び軽微な変更の申請はスケジューリングされて国の方に提出することは決まっていますと思いますが、そのスケジュールについてせつかなのでこの場で皆さんに説明いただければと思います。また、すでに国と調整していることがありましたら合わせて説明いただきたいです。

◆事務局

まず令和4年度進行管理・評価シート（案）ですけれども、こちらはこの協議会が行われる前に一度国の方に確認いただいております。そしてこの協議会を経まして最終的に内容に修正を加え国の方に提出いたします。時期としては毎年5月ごろを目途にというスケジューリングで行っております。次に軽微な変更についてですが、こちらについても事前に国に確認を取っております。国の方では変更について、それが軽微なものにあたるのか、それとも計画変更にあたるのかを審査しておりますが、今回の場合は軽微な変更にあると回答をいただきましたので、その様式として申請を行っていく次第です。

◆県文化財課安氏

進行管理・評価シートについてはそういうことであれば、この協議会での意見を踏まえもう少し内容を吟味と言うことになるかと思えます。それであれば、一部内容について修正した方が良い部分もありましたのでこの機会にお伝えしたいと思えます。例えば、評価シートP15で能のことが出ていますが、P19の歴史的風致活動の推進にもほとんど同じような内容が書いてあります。趣旨から言いますとこれは伝統芸能の継承に集約するものと思えますし、歴史的風致活動の推進においてはもっと別の活動を記載してもらった方が、幅が広がるのではないかと思います。他には、P24の土木工事等に伴う関係課や事業者との協議（200件）ですが、これはおそらくP27の埋蔵文化財の取り扱いのところに記載する内容ではないでしょうか。他には、P28の例えば九谷磁器窯跡整備委員会の開催は、おそらくP21の文化財の保存・活用の現況と今後の方針に入ってくるものかと思えます。このように、そういう意味では内容についてこれから吟味が必要なのかなと思えます。

◆馬場先会長

色々な項目のすみ分けがまだしっかりとされていないのかと思えます。そのあたりで、修正ができるようなものがあれば修正して、次年度以降の報告の際にも反映していき、今年度間に合うものは今回修正していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

今年の協議会も活発な意見交換ができ、有意義な会にできたと思います。それでは、事務局の方に進行をお返しいたします。

◆事務局

馬場先会長ありがとうございました。本日の議事録につきましては後日皆様の方にご送付したいと思います。記録内容に疑義がございましたらご連絡いただければと思います。最後になりますが、本協議会は協議会条例に基づきまして、皆様の任期を今年度3月31日までとしております。そのため、来年度に予定しております次回の協議会につきましては、改めて委員を委任した上で開催しますのでよろしくお願い致します。それでは、これもちまして、第2回加賀市歴史的風致維持向上協議会を閉会いたします。皆様、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。